

科目	文化人類学	担当	比留間 洋一	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

**【授業目標・到達目標】**

授業目標:にわかに理解したり受け入れがたい異文化を、フィールドワークによって、文脈に即して内側から理解し、さらに自文化のフィルターを相対化する、という文化人類学の理論と方法について私自身(比留間)の研究や経験を踏まえた講義をおこなう。

到達目標:受講生が、(1)「序列バイアスの修正業」(亀井伸孝)という視点から文化人類学の歴史について、(2)具体事例を通して介護に対する人類学的アプローチについて、(3)私自身の研究の紹介を通して人類学的フィールドワークについて、理解を深めることを目標とする。

**【履修注意】**

毎回の感想や要望について忌憚りの無いコメントをメール(hiruma-y@seijoh-ac.jp)で受け付けます。

**【評価方法】**

授業やコミュニケーション・カードへの積極的な参加を加味した平常点(60%)、期末試験(40%)。

**【試験について】**

期末試験は試験(授業時の配布資料は持込可)とする。

再試験対象者の条件: 再試験は行わない。

**【予習・復習】**

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

**【教科書】**

購入教科書なし。必要に応じてプリントを配布する。

**【参考書】**

**【その他の注意事項】**

**【授業計画・内容】**

回数	項目	内容
1	序列バイアスの修正業としての文化人類学	文化の古典的定義、ろう者の文化
2	マリノフスキーのフィールドワーク、「クラ」(前半)	安楽椅子の人類学者、進化論、西太平洋の遠洋航海者
3	マリノフスキーのフィールドワーク、「クラ」(後半)	機能主義、クラ、交換
4	アメリカの文化人類学	ボアズ、文化相対主義、反人種主義
5	フランスの文化人類学	レヴィ・ストロース、エスノセントリズム(自文化中心主義)
6	文化人類学の相対化	アイヌ、イオマンテ
7	文化人類学の相対化	文化の表象、エスニシティ、『文化を書く』
8	文化人類学の相対化	エスニック・アイデンティティ、東京のアイヌの若者
9	何もしないケア(?) ~タイのエイズ・ホスピス寺院のフィールドワーク~	タイの仏教看護、ケアのモード、看取り文化
10	認知症の医療人類学 ~ぼけの復権をめざして~	医療化、疾病/病い、『恍惚の人』
11	自己意識問題としての認知症 ~自分探しの旅!~	ユマニチュード、分節化、境界理論
12	拒食と過食の文化人類学 ~なぜふつうに食べられないのか~	家族モデル、物語、フロー
13	外国人家事労働者の文化人類学 ~フィリピン女性が国を離れる理由~	エージェンシー、文化資本
14	シャーマニズムと癒し~『君の名は』はシャーマンが共同体を救う物語!~	シャーマニズム、癒し、病治し
15	総まとめ	ふりかえり
16	期末テスト	15コマの復習・確認